

近代建築きままに散歩

@OSAKA CITY

コットン



お気に入りの皆さんとソウルメイトに！

～ Copyright (C) コットン ～

中央電気倶楽部



【飾り壺】



【植物モチーフのテラコッタ】

所在地：北区堂島浜 2-1-25

建築年：1930年（昭和5）

設計：葛野壮一郎

外観はシックなスクラッチタイルでまとめている。内部は1階は大理石、2階はタイル、3階は木で仕上げている。松下幸之助が「水道哲学」を話した場所でもあります。

（スクラッチタイル…表面に小さなくぼみをつけ焼き上げた無釉タイル、茶系統の色調を持つ外装用のせつ器質タイルのことを言います。）



橋の南詰めおよび北詰めには、最上級の黒雲母花崗岩を素材にした獅子像（＝ライオンの石像、天岡均一作）が左右両側にあるため、「ライオン橋」とも呼ばれている。このライオンは天王寺動物園の当時非常に珍しかったライオンがモデルとも言われている。

莫大小(メリヤス)会館

所在地：福島区福島 3-1-39

建築年：1929年（昭和4年） 設計：宗兵蔵

連続したアール窓や、内部空間の端々に施されたやわらかな曲線など細部にもこだわりがある。



ミナミ(株) (旧川崎貯蓄銀行福島出張所)

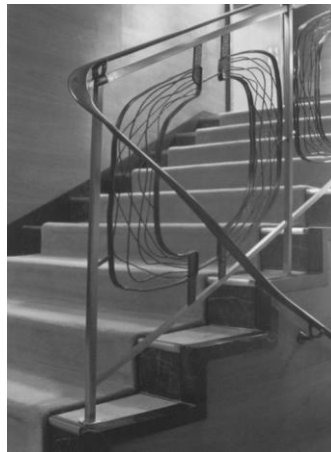
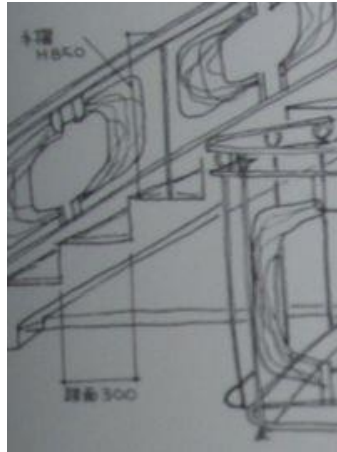
所在地:福島区福島 5-17-7 建築年:1934年(昭和9年) 設計:矢部又吉

ゆるやかに曲線を描く小ぢんまりとした建物に、銀行建築らしい左右対称で威厳のある4本のイオニア式オーダーが施されている。



輸出繊維会館

右図引用は「村野藤吾の造形意匠 (2) 階段・手摺」より



【手すり：連続する腰部の打ち出しの鋳物による装飾は芸術品！】

所在地：中央区備後町 3-4-9

建築年:1960年(昭和35年) 設計: 村野藤吾

生涯現役だった寡黙な建築家、村野藤吾の作品。晩年は曲線を駆使した自由な造形で知られステンレスサッシのコーナー・アール(角を丸くした窓)が印象的。彼は「遠目はモダニズム、近目は建築様式」という設計を心がけたようだ。



【オブジェ風手すり先端曲げ部分】【SFチックなキャピ- (上部を蓋状に覆った庇)】

大阪倶楽部



【鬼面の噴水】

GHQ にビルごと没収された時、鬼面の目玉(ヒスイ)が喪失。払い下げ後に復元。

所在地：中央区今橋 4-4-11 建築年：1924年（大正13）

設計：片岡設計事務所（安井武雄）



【部屋ごとに異なるハンチが見事】

ハンチとは2つの部材（特に柱と梁）を「斜めに」つないだ物で強度を増すため梁の断面を他の部分より大きくしたもの。

関東大震災が大正13年でその影響

でハンチを大きくしそれをうまく

デザイン化した試みが伺えます。



【窓の上部飾り左右にライオンが鎮座】

（事前申請すれば無料で説明と見学および撮影する事が出来ます。

所要時間1時間。食事付有料コースもあります。）

アーチに刻まれた植物模様やトーテムポールに鎮座する謎の

怪獣や玄関を開けると目の前に鬼面の噴水が現れる。

国籍不詳のオリエント。



【トーテムポール上の謎の怪獣】



泉布観（旧造幣寮応接所）

所在地：北区天満橋 1-1-1 建築年：1871年（明治4年）

設計：トーマス・J・ウォートルス

建物をベランダが囲むヴェランダ・コロニアル形式の洋館内部は、格式高いインテリアが施されており、シャンデリアの照明やタイル似のペンキ塗り床、当時のものとしてかなり貴重な水洗トイレ等。「泉布」は貨幣の古称。



大阪朝日ビルディング

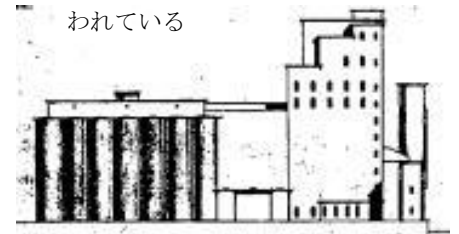


若林あかね監督「伝統の継承と進化」より
1930年12月18日の平面図(左)当時の模型(右)



【石川純一郎の卒業計画】

矩形もしくはその組み合わせ
や円柱といった単純形態が現
われている



所在地：北区中之島 3-2-4 建築年：1931年（昭和6） 設計：竹中工務店（石川純一郎）

当時まだ珍しいアルミやステンレスの金属パネルを大々的に使い、水平ラインの強調がスピード感を生み出し、大きなガラスを使用しています。竣工当時「日本で最もセンセーショナルな建物」と評された。屋上は航空灯台があり又、夏はプール・冬はインドアスケートが楽しめた。

関西で活躍した近代建築家(Osaka Ver.)

辰野金吾(日本銀行大阪支店、中央公会堂、旧シェ・ワダ高麗橋本店)

葛野壮一郎(中央電気倶楽部、大江ビルヂング)、野口孫市(中之島図書館)

片岡安(中央公会堂、大阪市庁舎<現存せず>)、設楽貞夫しだらきだお(長瀬産業、初代通天閣)

渡辺節(綿業会館、大阪ビルヂング⇒ダイビル本館に外観・エントランスホールが復元)

村野藤吾(輸出繊維会館、現存せず⇒新大ビル・そごう大阪店・難波新歌舞伎座)

安井武雄(大阪倶楽部、高麗橋野村ビルディング、大阪ガスビル)

W・M・ヴォーリス(大丸心齋橋店、日本基督教団大阪教会、大同生命ビル<現存せず>)

本間乙彦(芝川ビルディング、小川香料)、宋兵蔵(生駒ビルヂング、莫大小会館)

日本銀行 大阪支店



[ベルギー中央銀行]

所在地：北区中之島 2-1-45

建築年：1903年(明治36),改修1982年(昭和57)

設計：辰野金吾、葛西万司、長野宇平治

ベルギーの中央銀行をモデルにしなが、細部はイギリスのネオクラシシズムに倣ったといわれるデザイン。国家の建築に相応しい堅実な佇まい。

【『日』という漢字の古代書体の一種で日本銀行のマークです。



】



絵：コットン



【駅通司大阪郵便役所跡】

1871年(明治4)大阪-京都・東京間の開設があり、

ここにその郵便役所がおかれた(元島原藩蔵屋敷)。

最初の3日間で53通。

江戸堀コダマビル

所在地：西区江戸堀 1-10-26

建築年：1935年(昭和10年)

設計：山中茂一・岡本新次郎(岡本工務店)

大阪市内で綿布商を営んでいた児玉竹次郎氏の住居として建てられたヴォーリズ建築風スパニッシュスタイルの建築。



中之島図書館

所在地：北区中之島 1-2-10

建築年：1904年(明治37)

設計：住友本店臨時建築部

(野口孫一, 日高 胖)

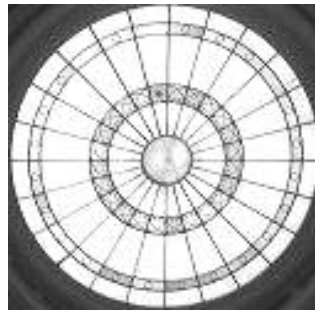


大阪初の本格的な図書館は住友吉左衛門の寄付によって生まれた。

ネオ・バロック様式で建てられた建物は左右の両翼を建て増しし、現在の形となった。

当時は市役所が無く対面する建築の師匠：

辰野金吾の日本銀行を超えようと全力を注ぎ込んだ。2階中央ホールのみ無料見学可能。



【中央ホールのステンドグラス天井】 【中央ホール内部】

長瀬産業

所在地：西区新町 1-1-17

建築年：1928年(昭和3年) 設計：設楽貞夫

正面のバルコニーとアーチ型の窓が特徴。凱旋門にエッフェル塔が載った初代通天閣や大阪市電気科学館(手塚治虫も通った日本初の科学館)、三越百貨店大阪支店を作った人の作品。



山内ビル



所在地：西区土佐堀 1-1-4 建築年：1933年(昭和8)

設計：今北建築事務所(今北乙吉)

連続するアーチ窓が生み出すリズム、場所によって変化を付けたタイルの張り分け、ロマンチックな窓のステンドグラスや軒飾りなどで見るものを楽しませる。元々は法律事務所
1階は結城野菜のランチが楽しめる「里山カフェ」

中央公会堂



【正面アーチにはステンドグラス】

所在地：北区中之島 1-1-27

建築年：1918年(大正7),改修2002年(平成14)

設計：(現設計)岡田信一郎,(実施設計)辰野片岡建築事務所

ネオ・ルネサンス様式の華麗な施設。設計は指名コンペ採用、29歳の岡田が勝ち取る。大アーチ下はステンドグラスが嵌められている。株の仲買商の岩本栄之助がアメリカを視察し、大規模な集会施設が不可欠と痛感し私財を投入。保存に

関しては市民の寄付が集められ、その中で手作りの

「中之島まつり」が生まれた。屋根の上には右が智の女神「ミネルヴァ」左が商業の神「メルクリウス」の神像がある。原画は背後に、実際には作られなかった大阪市章「みおつくし」が描かれている。



大阪ビルヂング (ダイビル本館に外観・エントランスホールが復元)

所在地：北区中之島 3-6-32

建築年：1925年(大正14年)

設計:渡辺節

材・ロマネック様式の8階建て大規模ビル

で「大大阪」時代の象徴。外壁とエントランスホールに装飾を集中させる一方、最新の設備を導入するなど、装飾性と合理性を追求。



【復元途中の外観】

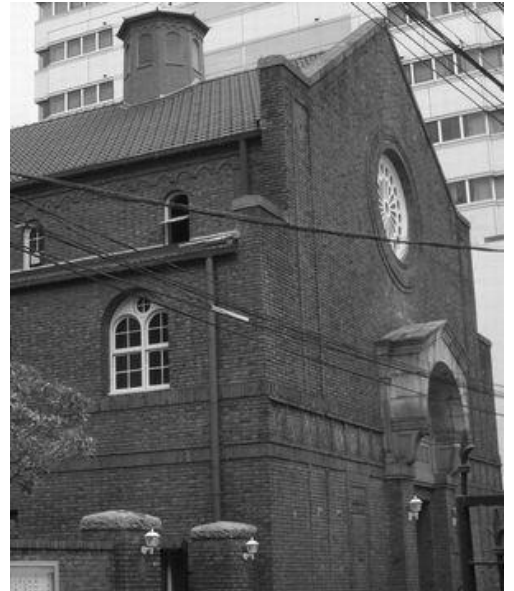
日本基督教団 大阪教会

所在地：西区江戸堀 1-23-17

建築年：1922年(大正11年) 設計：W.M.ヴォーリズ

キリスト教徒伝道者で建築家志望のヴォーリズは大学では専門的な建築の勉強をせず、日本に来て滋賀県立八幡商業学校で英語教師をしながら生徒の洗礼を行い2年足らずで解任されるが日本にとどまり、建築設計やメンソレータムの販売などを行っていきます。

大阪教会はフランドル積み煉瓦外壁に正面妻壁のバラ窓を特徴とする礼拝堂。



大阪屋本店（旧新町演舞場）

所在地：西区新町 2-5-5 建築年：1922年（大正11年）

設計:片岡建築事務所（吉木久吉）

父が勤務していた会社が昔、芸妓達の新町演舞場だったとはびっくり!(大阪では最初の純洋式劇場でセセッション・スタイル)小学生のとき、3回中へ入ったがエントランスには「シャキッとした空気感」が漂い、またその界限も
当時は三味線と長唄(か?)が聞こえる残り香が・・・



府立江之子島文化芸術創造センター

(旧大阪府立産業技術総合研究所)

所在地：西区江之子島 2 建築年：1937年（昭和12年）

設計:大阪府営繕課

アートやデザインなどの企画、コレクション、イベントなどに活用されています。



細野ビルディング

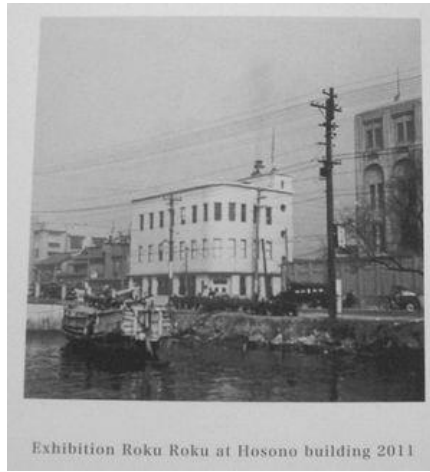
所在地：西区新町 4-5-7

建築年：1936年（昭和11年）

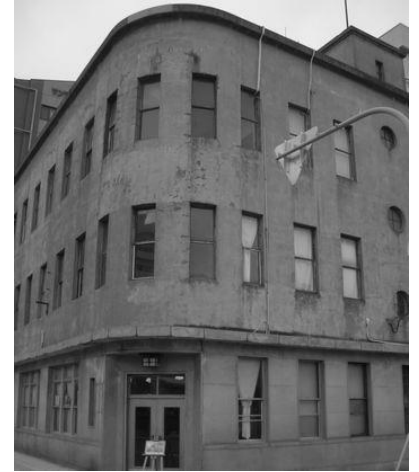
設計:細野組建築部

地下鉄工事で当初のテラコッタ
が2枚ほど剥げ落ちたため

全て取り払われて現在に至る。



Exhibition Roku Roku at Hosono building 2011



【一昔前の風景がポストカードに】

アートの情報発信基地。

大阪ガスビル

所在地：中央区平野町 4-1-2

建築年：1933年（昭和8年）

設計:安井武雄

安井武雄は卒業設計で和風の住宅建築を選んだ

変わり者で独自の自由様式の建築を創造した人。

端部が黒い庇による水平線の強調、大きなガラス

面、細く丸い付柱。歴史主義からモダニズムへの脱皮を宣言した安井武雄の最高傑作。



階段室にあるガスビルを描いた

アール・デコ 調の丸窓



北浜レトロ

所在地：中央区北浜 1-1-26

建築年：1912年(明治45年)

設計:不詳

煉瓦造2階建の英国式

ティールームとして再生。



【玄関上の半円形欄間】



芝川ビル

所在地：中央区伏見町 3-3-3

建築年：1927年（昭和2）

設計：基本設計及び構造設計：渋谷五郎、

意匠設計：本間乙彦

芝川家は唐物貿易の豪商。地震に強い耐久性だけ

でなく、中国古代文様を取り入れマヤ・インカの装飾を

東洋風アール・デコに仕上げた。戦争期迄は花嫁学校

(女子短期大学のはしり)だった。ビルの個性が凝縮し

た1階のショコラティエ「TIKAL(ティカール)」は

必見。本間乙彦は大阪市立都島工業の教員時代

(1924～1929)に同僚の渋谷五郎と設計をおこなった。



高麗橋野村ビルディング

所在地：中央区高麗橋 2-1-2 建築年：1927年（昭和2）

設計：安井武雄設計事務所

1階と最上階をやや軽くし、2～5階を水平・垂直の線や面を組み合わせ質感を高め均整の取れた動的表現。

瓦形タイルや、玄関脇の三日月形の照明を載せた独立柱など東洋的装飾も見られる。

伏見ビル

所在地：中央区伏見町 2-2-3 建築年：1923年（大正12）

設計：長田岩次郎

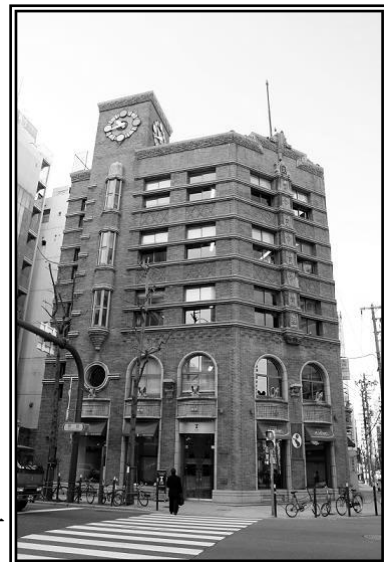
角の柔らかなアールとそこに向かって階段状に昇っていくライン、窓の上には円に十文字の飾りをつけ幾何学的なアールデコの要素が控えめにあしらわれている。



生駒ビルヂング

所在地：中央区平野町 2-2-12

建築年：1930年（昭和5）設計：宋建築事務所



流行のスクラッチタイルを全面に張り、中南米のモチーフを盛り込んだ様式に囚われない、アールデコスタイルの密度の高いデザインを生み出した。ショーウインドウの上の鷹の彫刻は当初、フクロウだったそうだ。時計店なので、屋上の時計塔とその下の出窓が振り子時計を模している。

【大阪ビルヂングと共に近代建築好きのきっかけとなったビル】

青山ビル（丸福珈琲 北浜店）

所在地：中央区伏見町 2-2-6

建築年：1921年（大正10）

設計：大林組

「ツタのビル」その蔦の下は窓廻りの飾り柱やバルコニー、窓にはめ込まれたステンドグラスが見えるスパニッシュスタイルが特徴。

1階の丸福珈琲の奥部屋のハンチも素敵です。

（オフ会で使用：ホットケーキおいしかった。）



オペラ・ドメーヌ高麗橋

（旧シェ・ワダ高麗橋本店）

所在地：中央区高麗橋 2-6-4

建築年：1912年（明治45）設計：辰野金吾

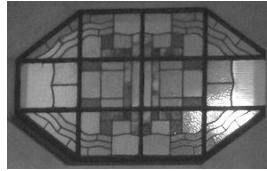
赤レンガに白い花崗岩のボーダーでアクセントをつけたクイーンアン様式に塔やドームを載せた辰野式。

「オペラ・ドメーヌ高麗橋」というレストランウエディングのお店になりました。



小川香料

所在地：中央区平野町 2-5-5



建築年：1930年（昭和5年） 設計：本間乙彦

アール・デコ様式建築。スピード感がある水平線のラインがいい。

また玄関上部のアール・デコ調ステンドグラスも素敵です。

（生駒ビルディングとともに『平ぶら』の面影を残すモダンなビル）

船場ビルディング

所在地：中央区淡路町 2-5-8

建築年：1925年(大正14)1998年(平成10)改装

設計：村上徹一/二見恵美子（改装）

外観からは想像できない4階まで吹き抜けパティオ風中庭が異空間にトリップしたようで魅力的！ 1Fの玄関廻り床面は木レンガ。

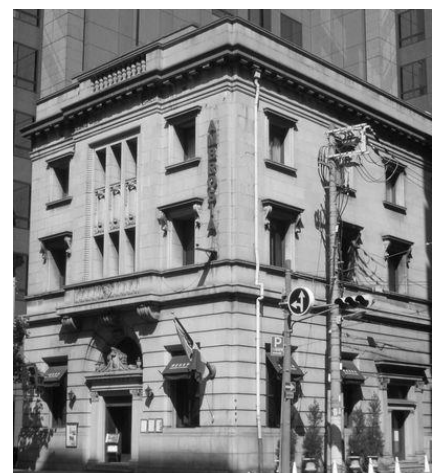


堺筋倶楽部アンブrosia

所在地：中央区南船場 1-15-12 建築年：1931年（昭和6年）

設計：川崎貯蓄銀行建築課(矢部又吉?)

バロック様式。近代建築がレストランなどに再生されていく当初の成功例で銀行からフレンチ・イタリアレストランとなった。



綿業会館

所在地：中央区備後町 2-5-8

建築年：1931年（昭和6年）

設計：渡辺節建築事務所

渡辺節は学生時に吉原から通学して教授に嫌われるほどに遊びなれ、とびっきりのシャレもので人付き合いも上手だから、似たもの同士の船場の旦那衆から中規模のオフィスビルの仕事が舞い込んだ。綿業会館は大阪建築の至宝。

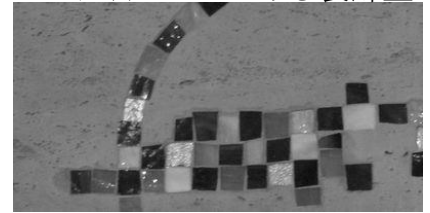
イタリア・ルネサンス調の外観。館内は有料で見学&見学・昼食付有



談話室:外支えの階段手すり



グラゼーションのある装飾壁



独立前の村野の作品と推定!

大理石に象嵌の食堂壁



会議室:ドア上&外枠が大理石



ブルーの天井の会員食堂



タイルパーストリーが有名なジャコビアンスタイルの談話室



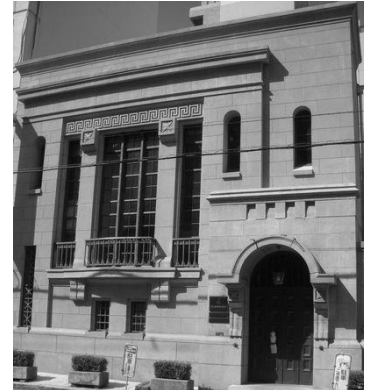
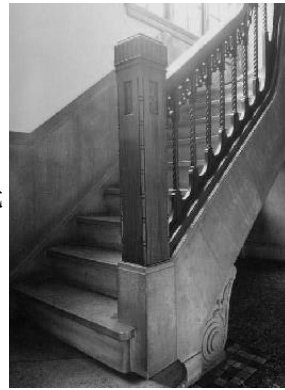
クイーン・アン・スタイルの豪華な特別室

原田産業

所在地：中央区南船場 2-10-14

建築年：1928年（昭和3年） 設計：小笹原祥光

シンメトリを崩した大胆な外観、幾何学的模様、
ロマネスク窓にバロック風手摺が特徴。

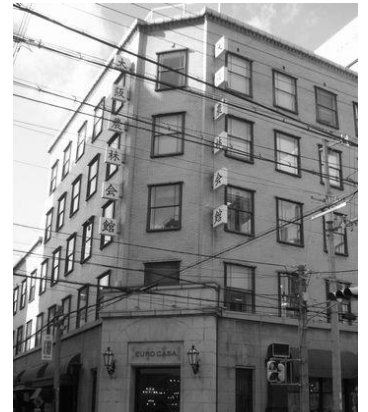


大阪農林会館

所在地：中央区南船場 3-2-6 建築年：1930年（昭和5年）

設計：三菱合資会社地所部

イギリスの建築様式。窓面を壁面より出しぎみに扱っている所と
建物の角の処理に独自性がある。



大丸心齋橋店

所在地：中央区心齋橋筋 1-7-1

建築年：1937年（昭和12年）

設計：W.M.ヴォーリス

ネオ・ゴシックを基本にアールデコスタイル
の装飾。外壁は下部から上部へ花崗岩、スク
ラッチタイル、テラコッタ(白色、茶色、白色
の3層)となっている。

当初、木造4階建てレンガ造りで設計したが
1年半で焼失したため店舗再建の願いから
心齋橋筋側中央玄関上部に、テラコッタ

（陶製）の孔雀を掲げた。（ヴォーリス案
は不死鳥だったが、想像の動物のため孔雀
となった）他にも多くの動物がいてウサギ
とカメ、鷹、ペリカンなどがいる。



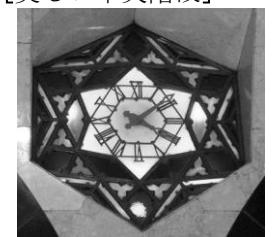
[天井にはステイタスのシンボル鷹が]



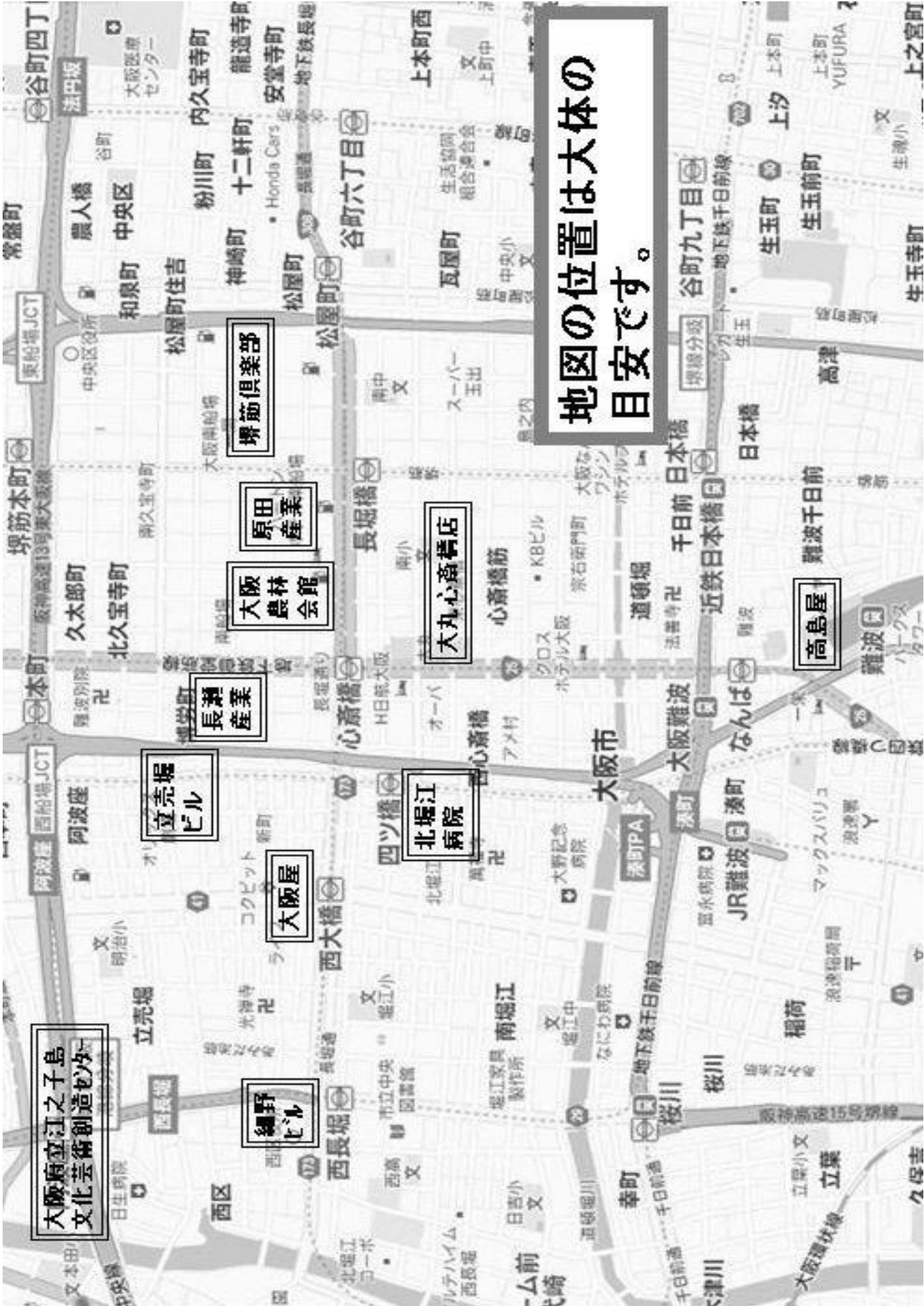
[美しい中央階段]



[テラコッタの孔雀]



[1Fエレベータ上のステンドグラス時計]



大阪府立江之子島
文化芸術創造センター

立売堀ビル

大阪屋

細野ビル

長瀬産業

大阪農林会館

原田産業

堺筋倶楽部

大丸心斎橋店

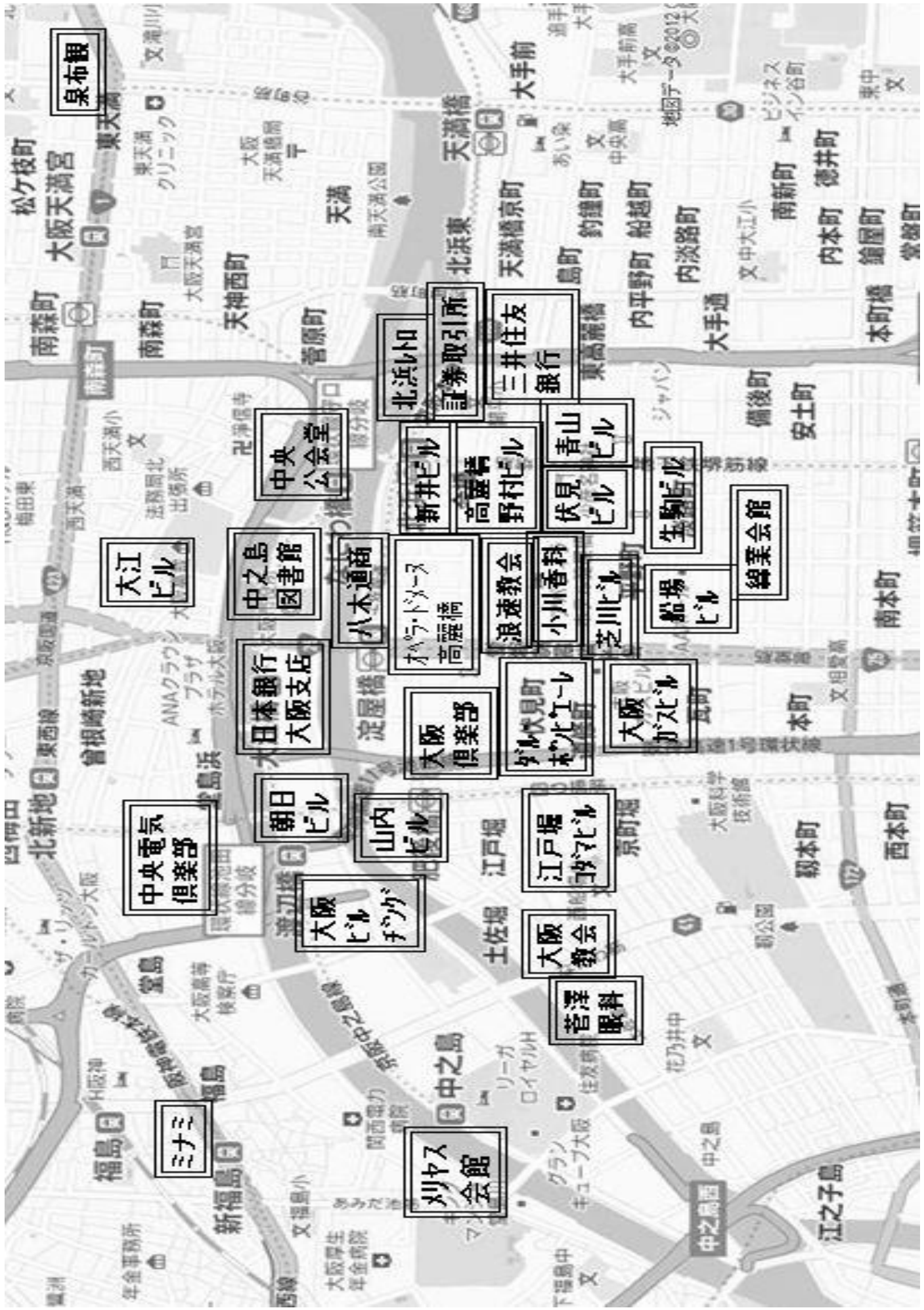
北堀江病院

高島屋

JR難波日湊町

高島屋

地図の位置は大体的
目安です。





参考文献

「大大阪モダン建築」 橋爪紳也

「日本の近代建築（上・下）」 藤森 照信

「ぼくらの近代建築デラックス」 万城目学、門井慶喜

「いいビルの写真集 West 」 BMC

「モダン・シティふたたび（1920年代の大阪へ）」 海野弘

「近代建築散歩 京都・大阪・神戸編」 アトリエ M5, 宮本 和義

「村野藤吾の造形意匠 (2) 階段・手摺」 村野藤吾

「日本近代建築大全<西日本篇>」 米山 勇(監修)

トキュメンタリー「伝統の継承と進化」 監督：若林あかね

「聞き書き 関西の建築—古き良き時代のサムライたち」 佐野 正一, 石田 潤一郎

「ある日の村野藤吾」 村野敦子

